

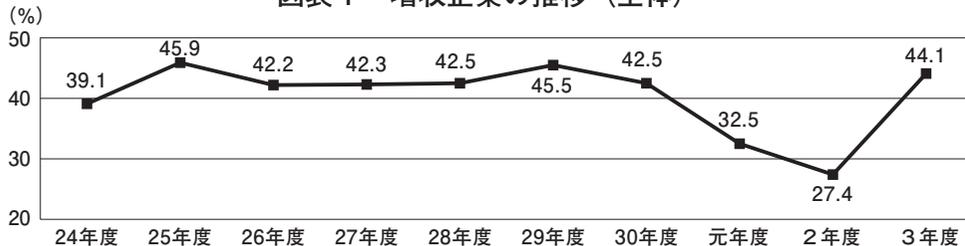
東京都中小企業収益動向調査

－令和3年度の収益動向と令和4年度の収益見通し－

1. 令和3年度の売上高の状況

令和2年度と比較した令和3年度の売上高の状況は、増加した企業（以下「増収企業」という。）が44.1%、減少した企業が55.9%となった。前回調査と比べて増収企業の割合は16.7ポイント増加した。

図表1 増収企業の推移（全体）

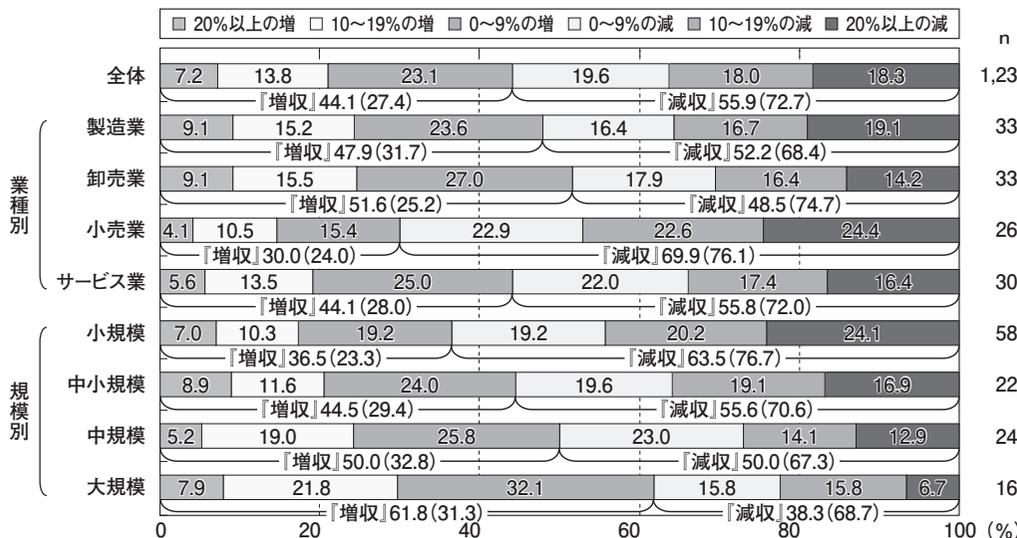


注) 無回答を除き集計。

業種別にみると、前回調査と比べて全ての業種で増収企業の割合が増加し、なかでも卸売業（51.6%）は26.4ポイント増加した。

規模別にみると、規模が大きくなるほど増収企業の割合が高くなり、大規模（61.8%）は6割を超える。

図表2 令和3年度の売上高の状況（業種別・規模別）

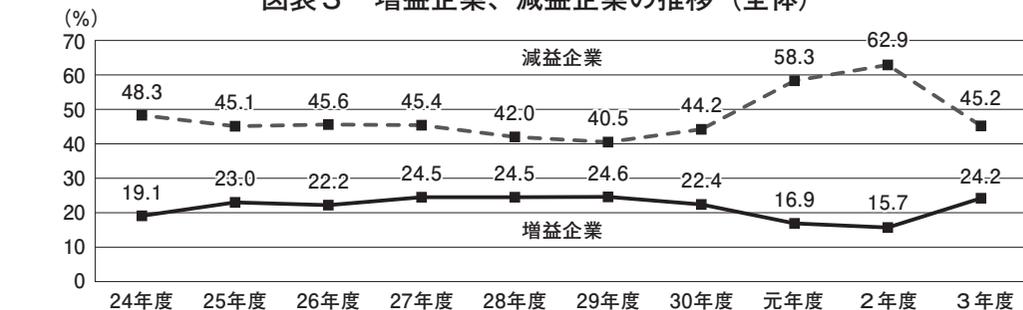


注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。()内は前回調査（令和3年9月）の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

2. 令和3年度の経常利益の状況

令和2年度と比較した令和3年度の経常利益の状況は、増加した企業（以下「増益企業」という。）が24.2%、減少した企業（以下「減益企業」という。）が45.2%となった。前回調査と比べて増益企業の割合は8.5ポイント増加、減益企業の割合は17.7ポイント減少し、経常利益の状況は改善した。

図表3 増益企業、減益企業の推移（全体）

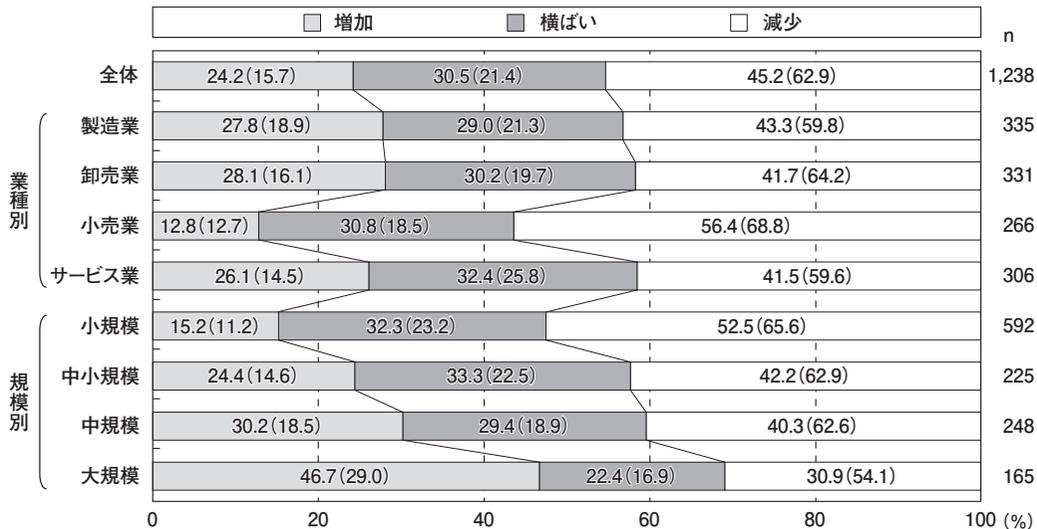


注) 無回答を除き集計。

業種別にみると、前回調査と比べて減益企業は製造業（43.3%）が16.5ポイント減少、卸売業（41.7%）は22.5ポイント減少、小売業（56.4%）が12.4ポイント減少、サービス業（41.5%）は18.1ポイント減少し、全ての業種で減益企業の割合が減少した。

規模別にみると、大規模は増益企業（46.7%）が減益企業（30.9%）を上回った。

図表4 令和3年度の経常利益の状況（業種別・規模別）



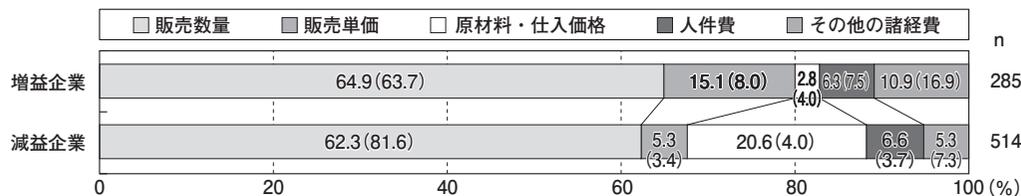
注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。()内は前回調査（令和3年9月）の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

3. 経常利益増減の主な要因

令和3年度の経常利益増減の主な要因を増益企業でみると、「販売数量」(64.9%)が最も高く、「販売単価」(15.1%)、「その他の諸経費」(10.9%)の順で続いた。前回調査と比べて「販売単価」が7.1ポイント増加した一方、「その他の諸経費」は6.0ポイント減少した。

また、減益企業でみると、「販売数量」(62.3%)が最も高く、「原材料・仕入価格」(20.6%)、「人件費」(6.6%)の順で続いた。前回調査と比べて「販売数量」が19.3ポイント減少した一方、「原材料・仕入価格」が16.6ポイント増加、「人件費」が2.9ポイント増加した。

図表5 増益、減益企業別の経常利益増減の主な要因

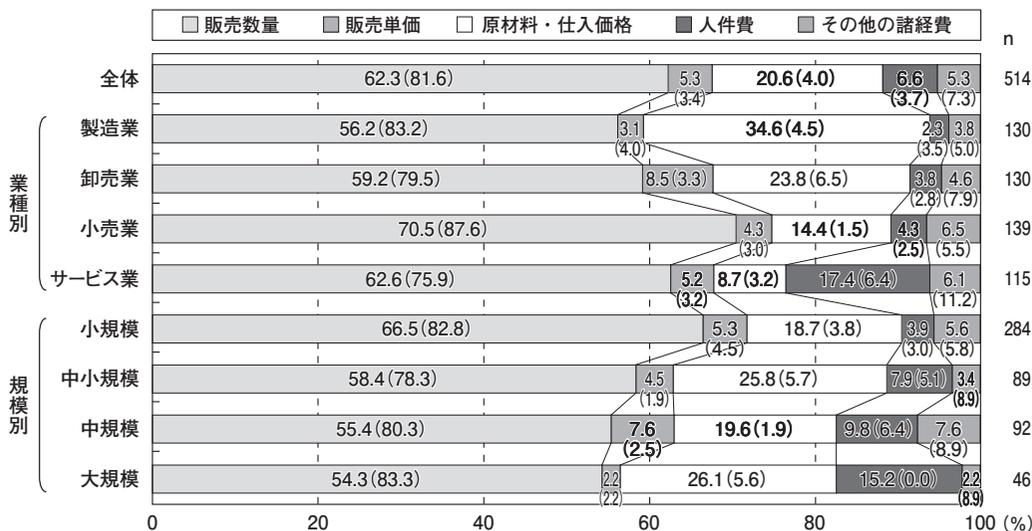


注) 無回答を除き集計。()内は前回調査(令和3年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

減益企業における経常利益減少の主な要因を業種別にみると、前回調査と比べて全ての業種で「原材料・仕入価格」の割合が増加し、なかでも製造業(34.6%)は30.1ポイント増加した。また、他の業種に比べてサービス業は「人件費」(17.4%)が高く、前回調査と比べて11.0ポイント増加した。

規模別にみると、他の規模に比べて大規模は「原材料・仕入価格」(26.1%)と「人件費」(15.2%)が高い。

図表6 経常利益減少の主な要因(業種別・規模別)

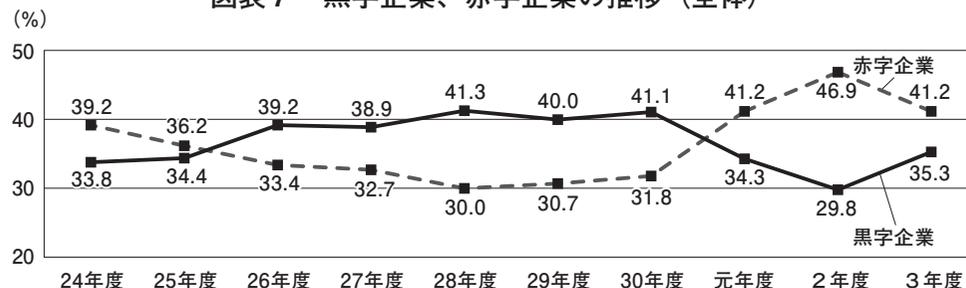


注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。()内は前回調査(令和3年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

4. 令和3年度の採算状況

令和3年度の採算状況は、黒字企業が35.3%、赤字企業が41.2%となった。前回調査と比べて黒字企業の割合は5.5ポイント増加、赤字企業の割合は5.7ポイント減少したが、赤字企業が黒字企業を上回る状況が依然として続いている。

図表7 黒字企業、赤字企業の推移(全体)

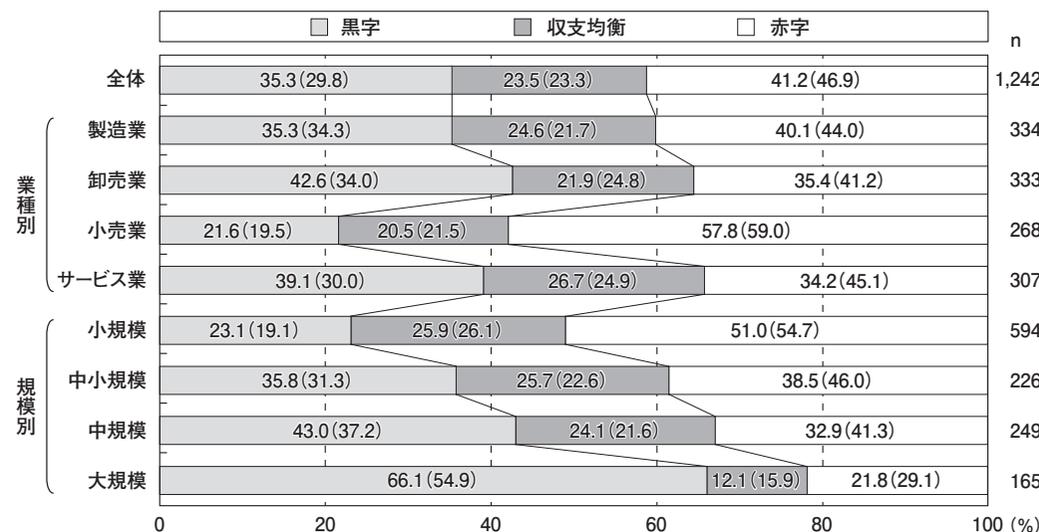


注) 無回答を除き集計。

業種別にみると、前回調査と比べて全ての業種で「赤字」が減少し「黒字」が増加した。なかでもサービス業は「赤字」(34.2%)が10.9ポイント減少、「黒字」(39.1%)が9.1ポイント増加し、採算状況は改善した。

規模別にみると、規模が大きくなるほど黒字企業の割合が高く、大規模(66.1%)は6割を占める。

図表8 令和3年度の採算状況(業種別・規模別)

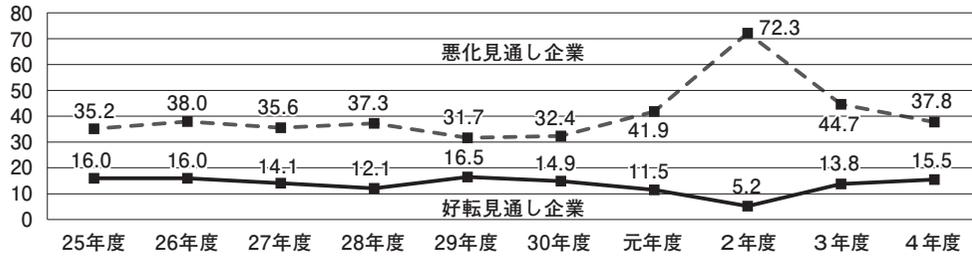


注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。()内は前回調査(令和3年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

5. 令和4年度の収益見通し

令和4年度の収益見通しは、好転見通し企業が15.5%、悪化見通し企業が37.8%となった。前回調査と比べて好転見通し企業の割合は1.7ポイント増加し、悪化見通し企業の割合は6.9ポイント減少した。

図表9 好転、悪化見通し企業の推移（全体）

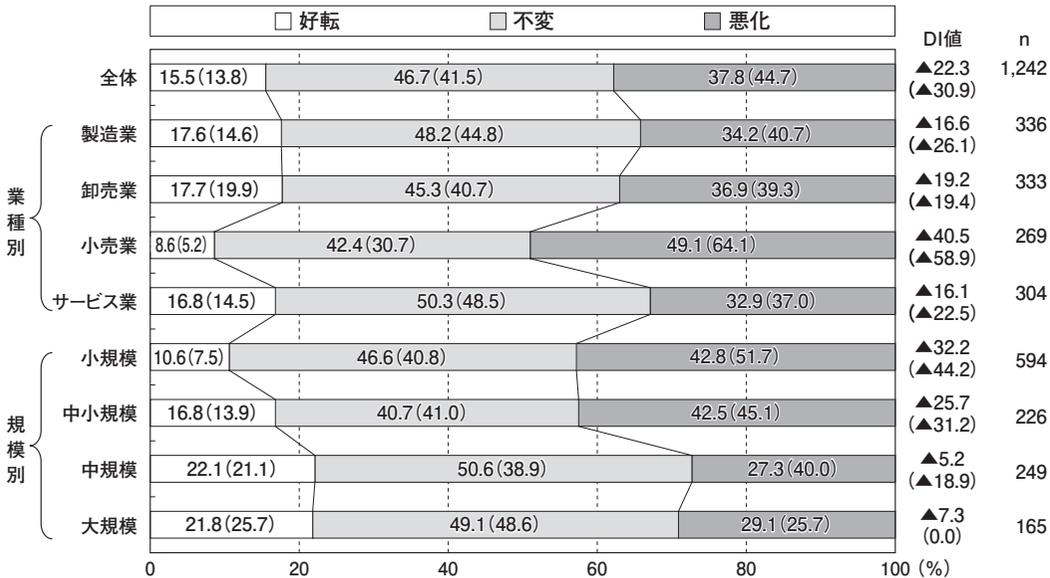


注) 無回答を除き集計。

業種別に収益見通しをDI値(好転-悪化)でみると、前回調査と比べて全ての業種で改善した。なかでも小売業▲40.5は18.4ポイント増加した。

規模別に収益見通しをDI値でみると、前回調査と比べて小規模▲32.2は12.0ポイント増加、中小規模▲25.7は5.5ポイント増加、中規模▲5.2は13.7ポイント増加した。一方、大規模▲7.3は7.3ポイント減少し、収益見通しが悪化した。

図表10 令和4年度の収益見通し（業種別・規模別）



注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。()内は前回調査(令和3年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。